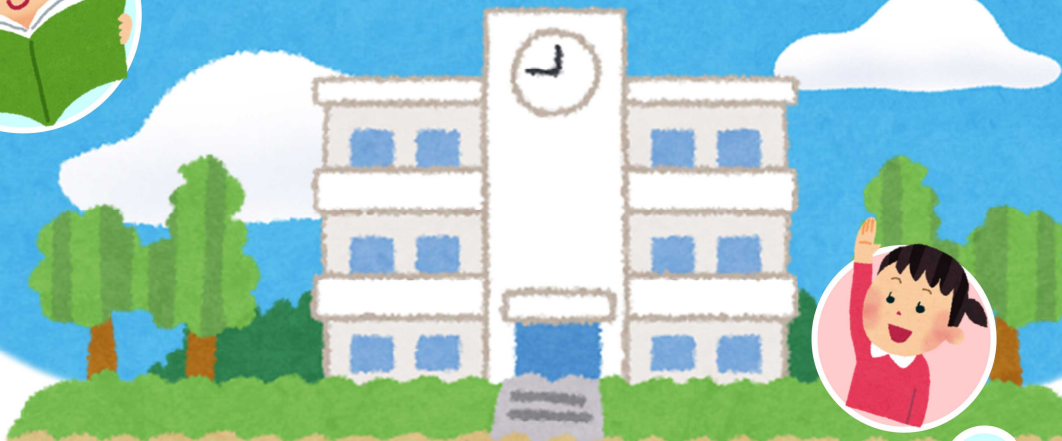


保存版

# 発達障がいを 正しく 理解しよう！



1. 発達障がってなんだろう？ . . . . . P1
2. それぞれの障がいの特性は？ . . . . . P2
3. どんなことで困っているの？ . . . . . P3
4. どんなふうに関わればいいのか？ . . . . . P7
5. どこに相談すればいいのか？ . . . . . P9



学齡期編

宇都宮市



# 1

## 発達障がいってなんだろう？

発達障がいとは、脳のある部分の機能不全によるものであり、家庭でのしつけや本人のわがままが原因ではありません。発達障がいは、一見ただけではわかりにくい障がいであるため、周囲の正しい理解と対応が必要になります。

### 発達障がいの特性

- 言葉の発達の遅れ
- コミュニケーションの障害
- 対人関係・社会性の障害
- パターン化した行動、こだわり

診断基準のひとつであるアメリカ精神医学会によりまとめられたDSM-5では、「広汎性発達障害」は「自閉スペクトラム症」となるなど名称が変更になっております。

知的な遅れをともなうこともあります

#### 自閉症

#### 広汎性発達障害

#### アスペルガー症候群

#### 注意欠陥多動性障害

- 不注意(集中できない)
- 多動・多弁(じっとしてられない)
- 衝動的に行動する

#### 学習障害

- 「読む」、「書く」、「計算する」等の能力のいずれかが全体的な知的発達に比べて極端に苦手

- 基本的に、言葉の発達の遅れはない
- コミュニケーションの障害
- 対人関係・社会性の障害
- パターン化した行動・関心の偏り
- 言語発達に比べて、不器用

厚生労働省発行

「発達障害の

理解のために」

(一部修正)



発達障害者支援法には、発達障がいを、「自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能の障害であってその症状が通常低年齢において発現するものとして政令で定めるもの」と定義づけられています。

### 自閉症、アスペルガー症候群の子どもたち

- ・ 言葉をそのまま受け取って、冗談が通じにくいことがある
- ・ 色々なことを話すが、その時の場面や相手の感情や立場を理解できない
- ・ 友達と仲良くしたいという気持ちはあるが、友達関係をうまく築けない
- ・ 自分のペースでコツコツと活動に取り組めるが、集団に合わせて行動することが苦手である
- ・ 自分なりの日課、手順をきちんと守れるが、変更や変化が苦手である
- ・ 自分の興味があることについての知識が豊富である など



### 注意欠陥多動性障害の子どもたち

- ・ 興味のあることに集中できるが、じつくりと活動するときに注意を集中し続けられないときもある
- ・ 好奇心旺盛だが、じっとしていられなかったり、細かいところに注意を向けられなかったりする
- ・ 活動に対して意欲的だが、順番を待てなかったり、他の人をさえぎったりしてしまう
- ・ 積極的に発言するが、質問を最後まで聞かずに答えてしまう など



### 学習障害の子どもたち

- ・ 相手に伝わるように話すことはできるが、聞き間違いや聞きもらしがある
- ・ 正しく聞き取ることはできるが、思いつくままに話すなど、筋道の通った話をするのが難しい
- ・ 文字を書くことはできるが、文中の語句や行を抜かしたり、繰り返し読んだりする
- ・ 文字を読むことはできるが、字の形が整っていなかったり、文字の細かい部分を書き間違えたりする
- ・ 読み書きはできるが、簡単な計算が暗算でできない など

## 3

## どんなことで困っているの？

発達障がいの当事者の方々が書いた書籍から、学齢期の発達障がいの子どもたちの感じた困難さについて取り上げてみました。

## じっとしていることが苦手なために・・・



学校生活においては、45分から50分程度の授業時間中、席にじっとして座っていることや、集中して課題に取り組むことが求められます。

しかし、発達障がいの子どもたちは、わかっているけど・・・

- ・ 何かに興味をひかれて、席を離れてしまう
- ・ 学習の内容に反応して発言をしてしまう
- ・ 体をそわそわと動かしてしまう



じっとしていると、まるで体から魂が抜け落ちてしまうような気がするのです。不安で怖くていたたまれないのです。(略)動いていた方が安心できる僕らにとっては、落ち着きなさいという言葉の意味がなかなか分かりませんでした。

(東田直樹著 「自閉症の僕が跳びはねる理由」

エスコアール より)

子どものころの私は、落ち着きがなく、いつもキョロキョロしていました。何通りかの通学路を自分で見つけて、気分によってコースを変えるような子どもでした。(略)当然ながらよく迷子になりました。

(中山玲著 「わかっているのにできない、やめられない」

花風社 より)



## 外からの刺激を調節することが苦手なために・・・

子どもたちは学校生活において、たくさんの刺激の中から、先生の説明、友達の発表、黒板や教科書の文字や図などの必要な刺激(情報)のみを選択しながら、学習などに取り組んでいます。

しかし、発達障がいの子どもたちは・・・

- ・ 関心のある教室内の掲示物や友達の持ち物
- ・ 窓の外の興味をひく風景
- ・ 他の子どもたちの話し声
- ・ 道路を走る車の音

などが、気になってしまい、学習に集中できないことがあります。

教室で勉強するのは容易ではなかった。子ども同士で喋っていたり、廊下を歩いたり、走ったりしていると、授業に集中できなかった。外部の音を遮断することはできないので、集中するには、ときどき耳に指を突っ込むしかない。

(ダニエル・タメット著 古谷美登里訳

「ぼくには数字が風景に見える」 講談社 より)



「人混み」がしばしば私の感覚を刺激しすぎた。普通の生活の中でのスケジュールの変化や、予期しない出来事は私を錯乱に陥れた。(略)たくさんの人声のどよめき、さまざまなにおい(略)ひっきりなしの騒音や混乱、体のぶつかりあいには、私は圧倒された。

(テンプル・グランディン マーガレットM.スカリアノ著

カニングハム久子訳 「我、自閉症に生まれて」

学習研究社 より)



## その場の状況理解が苦手なために・・・

他の人との良好な関係づくりのためには、他の人の言葉の意味を理解するだけでなく、言葉の裏側の意味、相手の表情・心情やその場の雰囲気を読み取る必要があります。

しかし、発達障がいの子どもたちは、悪気はなく・・・

- ・ 友だちに向かって「その服、似合わないね」と言ってしまう
- ・ 危険を回避しようとして腕を引っ張った先生に対して、  
「暴力を振るわれた」と腹を立ててしまう

「切符を落としたら、もう電車に乗れないのよ！」と言われて、本気にしたことがある。(略)切符は手から離れて、私の右の靴と左の靴の間に落ちた。(略)「あーあ、もう二度と電車に乗れない身分になってしまったんだな」と思いながら、切符を拾い上げた。なのに、数分後、電車がきて、私は母に手を引かれて電車に乗った。ふつうに乗ってしまった。

(ニキ・リンコ著 「自閉っ子におけるモンダイな想像力」  
花風社 より)



グループ活動で自分が何をすればいいのかが、いつもよくわからなかった。(略)「あの人があれをしているから自分はこれをしよう」「あっちがまだ終わりそうにないから、ここが終わったら手伝おう」(略)などと互いの状況を見ながら、色々と考えて動く。私には、そうした無言の駆け引きというか、状況判断ができなかった。

(泉流星著 「地球生まれの異星人」 花風社 より)

## 読むことや書くことが苦手なために・・・

学校生活において、学習の時間は大きな割合を占めています。  
学習内容が理解できているかということが、子どもたちの自信や意欲につながります。

しかし、発達障がいの子どもたちは・・・

学習に必要な「聞く」・「話す」・「読む」・「書く」・「計算する」などの  
いくつかが極端に苦手な場合がある

その結果・・・ 思うように学習が理解できない  
努力してもうまくいかないことで、自信をなくしてしまう

黒板の文字は読むことはできても、それをノートに写すのに時間がかかる。(略)文字を写すことに精一杯で、授業内容がさっぱりわからなくなっていました。

(南雲明彦著 「LDは僕のID」 中央法規 より)

読むのは、朗読や音読をするとよくつかえてしまい、  
内容が全く頭に入ってきませんでした。文章を読むスピードが周りの人より遅いということも感じていました。

(藤堂高直著 「ディスレキシアな僕の人生」

主婦の友社 より)



### 二次的障がいに注意

発達障がいの理解不足や良いところを認めずに、一方的に叱るなどの理解のない対応

学習意欲や自尊心の低下、反抗的な言動などの兆候の表れ

不登校、学校や家庭での暴力などの難しい問題(二次的障がい)に発展する可能性



## 4

## どんなふうに関わればいいのか？

学齢期の子どもたちは、より大きな集団の中で、周囲の大人や友達とのかかわり合いを通して、様々な知識や技能を獲得し、「本当の自分」を形成していきます。

学齢期において、発達障がいの子子どもたちが、自信をもって、自分のペースで確実に成長していけるように、発達障がいの子子どもたち一人ひとりに応じた適切な対応が必要です。

## わがママ？ しつけの問題？ → 子どもの特性を理解しましょう

子どもたちの言動は、本人のわがママや親のしつけの問題だけでは片づけられません。かかわりの第一歩として、本人の得意なところと苦手なところを理解して、得意なところは認めて伸ばし、苦手なところは少し大目に見ながらひとつずつ練習していくようにしましょう。

## やる気がないの?? → 子どもを認め励ましてあげよう

子どもたちは、やる気がないわけではありません。やろうと思って努力してもうまくいかないことが多いのです。子どもたちが意欲的に活動できるように、子どもの良さ、得意なこと、できていることを褒めましょう。また、結果だけでなく、しっかりと取り組もうとしているその姿を認めましょう。



## 騒々しくて、気が散って… → 落ち着いた環境を作りましょう

しーっ…

子どもたちを取り巻く環境の影響で、子どもたちが不安定な言動を示すことがよくあります。子どもたちが落ち着いて活動に取り組めるように、身の周りをすっきりさせたり、雑音を取り除いたりするなど、感覚的な刺激をできるだけ調整した環境にしましょう。





## 急な予定変更が苦手！？

## 見通しをもたせましょう



子どもたちにとって、「先が見えない不安」はとても大きいものです。子どもたちが、「何を、どうすればいいのか」、「いつまで活動するのか」そして、「活動が終わったら、どうすればいいのか」などが分かるように、活動の内容、手順、活動後の課題などの見通し(スケジュール)を示しましょう。

## どっちが正しいの??

## 同じ対応を心掛けましょう

学校や家庭において、関わる人によって子どもたちに話す内容が大きく異なると、子どもたちは混乱してしまいます。子どもたちに関わる人は、できる限り同じ認識をもって、同じかかわりを心掛けましょう。

## 話が長くて…??

## 具体的な指示や声かけをしましょう

長い話やあいまいな指示は、子どもにとって、注意が続かず忘れてしまったり、内容が理解できなかつたりするだけで、子どもに伝わっていないことが多いものです。指示や声かけは、より具体的に、簡潔に行いましょう。

## 言われただけでは…??

## 視覚的な支援を取りいれましょう

子どもへの指示や説明をする場合に、どうしても言葉だけに頼りがちになってしまいます。より伝わりやすくするために、言葉の指示や説明だけでなく、図・写真・動画などの視覚的な情報を活用して伝えましょう。



## 「ちゃんとする」って??

## 具体的な方法を教えましょう

「ちゃんとしなさい!」、「～してはいけません!」と、よく子どもがたちを注意することがあります。しかし、子どもたちは、どう行動すればいいのかわからないことが少なくありません。「背中を伸ばしてまっすぐに立ちましょう」など、より具体的な行動の仕方を教えましょう。

**まずは、学校に相談を！**

発達障がいの子どもたちの充実した学校生活を支えるためには、学校と家庭の連携が欠かせません。気になることがあったら、まずは、担任の先生に相談しましょう。担任の先生だけでなく、学校に定期的に訪問しているスクールカウンセラーに相談することもできます。



また、宇都宮市の小中学校には、通常の学級や特別支援学級の他に「かがやきルーム」や「通級指導教室」という学びの場がありますので、必要に応じて利用することもできます。希望する場合には、学校に相談してみてください。

**かがやきルーム**

かがやきルームは、学習や生活上の困難さがあり、大きな集団の中では十分に力を発揮しにくい子どもたちが、将来の自立に向けた確実な力が身につけられるように、個別や小集団で落ち着いて指導(週に5時間以内)を受けられる場で、全国に先駆けて、宇都宮市が独自に各学校に設置したものです。

かがやきルームの利用やかがやきルームでの学習内容などについては、保護者や本人の考えを聞きながら、各学校において、校長先生を中心とした先生たちの話し合いによって決定されます。

**通級指導教室**

通級指導教室は、集団の中で生活や学習に困難を抱えている子どもたちを対象に、集団への適応や学習活動を円滑に行うための資質を身につける指導などを行います。週に1~2時間程度、通級指導教室が設置されている学校において、そこで指導を受けます(保護者の方による送迎となります)。

通級指導教室の利用については、宇都宮市教育センターの相談をとおして決定していきます。



## ○● 宇都宮市の相談機関 ●○

| 名 称                  | 特 徴                                       | 問合せ先     |
|----------------------|---|----------|
| 教育センター               | 小中学生の学校生活や発達などに関する相談を行っています。              | 639-4381 |
| 障がい福祉課               | 障がい児・者福祉の窓口として、療育手帳等の障がい福祉サービスの相談を行っています。 | 632-2354 |
| 子ども家庭課<br>(子ども家庭支援室) | 療育、性格・生活習慣、学校・家庭生活などの相談を行っています。           | 632-2390 |
| 子ども発達センター            | 子どもの発達(ことば・社会性・運動等)に関する相談を行っています。         | 647-4720 |

## ○● 栃木県の相談機関 ●○

| 名 称                        | 特 徴                            | 問合せ先     |
|----------------------------|--------------------------------|----------|
| 総合教育センター                   | 教育上の問題等についての相談を行っています。         | 665-7210 |
| 中央児童相談所                    | 18歳未満の子どもに関する問題についての相談を行っています。 | 665-7830 |
| 発達障害者<br>支援センター<br>「ふぉーゆう」 | 発達障がいに関する様々な相談を行っています。         | 623-6111 |

- ・この他、民間の相談機関や親の会などでも相談できるところがあります。
- ・相談の内容などによっては、他の機関をご紹介することがあります。



平成28年(2016年)2月発行

発行／宇都宮市

企画／宇都宮市教育センター

問い合わせ先

〒320-0816 宇都宮市天神1丁目1番24号

電話 028(639)4381

FAX 028(639)4390

メール kids@ueis.ed.jp

編集・制作／宇都宮市発達支援ネットワーク会議

